

## 2. 加西市の歴史文化遺産の概要と特徴

### 2-1. 加西市の歴史文化遺産の概要

加西市の歴史文化遺産の中でも、特に学術的・芸術的な価値が高いものは、文化財保護法・条例に基づく指定や登録をして、保護してきた（以下、これらを「指定等文化財」という）。

しかし、指定等文化財の他にも、加西市には、先史から現代に至る長い歴史の中で、数多くの歴史文化遺産が生まれ、受け継がれている。それらには、これまでの調査・研究で実態や存在が明らかにされている歴史文化遺産だけでなく、地域では大切にされているが、価値が広く知られていない歴史文化遺産や、未だ発見されていない歴史文化遺産なども含まれている（図 2-1-1 参照）。

これらは、加西市の歴史文化のさらなる魅力の向上や、市民を主体とした地域レベルの歴史文化を活かした取り組みにあたって、欠くことのできない重要な歴史文化遺産である。

このため、今後も継続的に調査・研究を実施して、実態の把握や価値の評価等を進めていくことが求められる。

そこで、本章では、「①調査等で把握した歴史文化遺産」と、現在文化財の指定等を受けている「②指定等文化財」の概況を整理する。

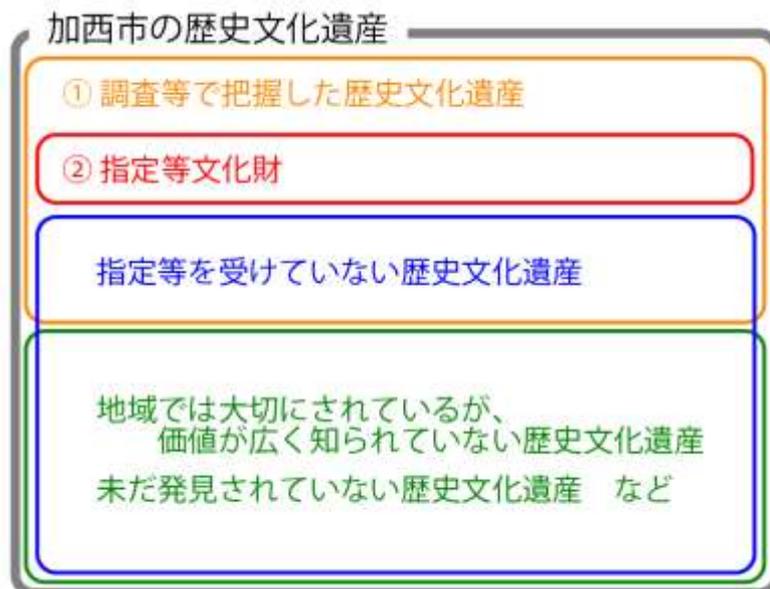


図 2-1-1 加西市の歴史文化遺産と本節で概況を整理する歴史文化遺産の位置づけ

## (1) 調査等で把握した歴史文化遺産

これまでの調査等で把握した歴史文化遺産は、表 2-1-1 に示す資料を用いて整理すると、合計 101,578 件にのぼる。その内訳は、古文書が 98,440 件と突出して多い。また、古文書以外を細分類で見ると、彫刻が 603 件と最も多く、石造物 441 件、古墳・墳墓が 396 件、神社 361 件、絵画 260 件、寺院 248 件、集落跡 139 件と続いている（表 2-1-2 参照）。

表 2-1-1 調査等で把握した歴史文化遺産の整理に用いた資料一覧

No.	資料名	発行年月日	編集・発行者
1	加西市史 第三卷（本編3）自然	平成14年9月	加西市史編さん委員会
2	加西市史 第四卷（本編4）文化財（美術・工芸）	平成15年3月	加西市史編さん委員会
3	加西市史 第五卷（本編5）文化財（建造物）	平成16年3月	加西市史編さん委員会
4	加西市史 第六卷（本編6）民俗	平成19年2月	加西市史編さん委員会
5	加西市史 別巻 加西の石仏	平成19年3月	加西市史編さん委員会
6	兵庫県の近代化遺産 —兵庫県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書	平成18年3月	兵庫県教育委員会
7	兵庫県の近代和風建築 —兵庫県近代和風建築総合調査報告書	平成26年3月	兵庫県教育委員会
8	兵庫の民家 —播磨地区調査概報—	昭和44年	兵庫県教育委員会
9	埋蔵文化財保護の手引き	平成23年度	兵庫県立考古博物館
10	史跡玉丘古墳群整備（修復）基本計画	平成28年度	加西市教育委員会
11	社会教育活動のあゆみ	平成28年度	加西市教育委員会
12	加西に捕虜がいた頃 —青野原収容所と世界—	平成28年3月	神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター／加西市教育委員会
13	加西市デジタルミュージアム	平成18年度	加西市
14	加西市北条地区歴史的景観形成地区景観ガイドライン	平成24年度	兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課 景観形成室／加西市都市整備部都市計画課
15	北播磨らしい景観 景観シート	平成29年3月	兵庫県北播磨県民局
16	加西市播磨国風土記の里と石仏と	平成28年3月	加西市播磨国風土記1300年祭実行委員会
17	腰石肥料舎 悉皆調査 報告書	平成31年3月	加西市教育委員会

表 2-1-2 調査等で把握した歴史文化遺産の種類別件数

歴史文化遺産の種類			地区									複数地区に またがる	合計
			北条	富田	賀茂	下里	九会	富合	多加野	西在田	在田		
建造物	建築物	寺院	45	20	28	23	27	19	40	19	27		248
		神社	30	30	47	40	57	29	65	23	40		361
		住宅	8	1	2	5	1		3	3	1		24
		その他	11	1	11	9	7	6	1		1		47
	石造物		49	32	56	92	57	61	48	14	31	1	441
	土木構造物				2							2	4
美術工芸品	絵画		24	15	15	48	27	14	55	22	40		260
	彫刻		83	65	68	86	67	44	96	28	66		603
	工芸品		7	7	4	13	3	3	17	7	6		67
歴史資料	棟札		12	8	8	14	13	5	8	15	3		86
	古文書											98,440	98,440
	その他		12	2	2	17	5	10	12	3	5		68
民俗文化	説話や伝承		5	2	2		2	3	4		2	1	21
	祭事・芸能		6	6	5	1	2	1	7	1	4	30	63
	生活・生業											8	8
史跡	散布地		5	10	6	23	10	16	7	5	10	1	93
	集落跡		10	21	10	11	14	22	28	7	12	4	139
	城館跡		2	3	2	4	3	3	11	2	7	4	41
	寺社跡			5		12	2		3	1	1		24
	生産遺跡		1	9	2	51	8	8	10	4	2		95
	古墳・墳墓		52	48	34	22	78	59	11	14	55	23	396
	近代戦争遺跡等						1	1					2
	その他遺跡			2	1		1		2		2		8
名勝・ 天然記念物	庭園					1	1				2		4
	地形		1	3	2		4	2	1	1	2	3	19
	動植物						1		2		2	1	6
伝統的建造物群 文化的景観	集落景観		1		1								2
合計			364	290	308	472	391	306	431	169	321	98,526	101,578

※資料間の重複を精査した合計を示しているため、各報告書・計画書等に掲載されている件数とは異なる。

これらの「調査等で把握した歴史文化遺産」のうち、これまでの加西市の観光パンフレット等に掲載してきた歴史文化遺産は表 2-1-3 のとおりである。これらは、加西市の歴史文化を代表する歴史文化遺産であるといえ、今後の加西市における地域振興・観光振興等を推進していく際にも、重要な役割を担う歴史文化遺産であるといえる。

表 2-1-3 これまでの観光パンフレット等に掲載してきた主な歴史文化遺産

歴史文化遺産の種類		地区	名称	
建造物	建築物	寺社	北条	酒見寺、羅漢寺、樂法寺、住吉神社、八坂神社
			富田	高峰神社、八幡神社（谷口町）
			賀茂	常行院
			下里	一乗寺、多聞寺、古法華寺、王子神社
			九会	周遍寺、見性寺、乎疑原神社、八幡神社（網引町）
			多加野	普光寺、奥山寺、普明寺、日吉神社、八王子神社
			西在田	東光寺、金剛院、磯崎神社（下道山町）
			在田	久学寺、石部神社
	民家他	北条	高井家住宅、水田家住宅	
		下里	播磨下里駅、法華口駅	
	石造物	北条	五百羅漢、小谷石仏	
		賀茂	古法華石仏、常行院石造七重塔	
		下里	倉谷石仏	
富合		山伏峠石棺仏		
多加野		大日寺石仏群		
土木構造物	北条・賀茂・下里・九会	北条鉄道		
説話や伝承		全域	播磨国風土記ゆかりの地	
		在田	女切峠	
祭事・芸能		北条	北条節句祭り、五百羅漢の千灯会	
		富田	高峰神社の大祭	
		賀茂	古法華春祭り	
		九会	八幡神社（網引町）の獅子舞、乎疑原神社の春祭り	
		多加野	日吉神社の秋祭り、日吉神社の御田植祭	
		在田	石部神社の秋祭り	
		西在田	東光寺の田遊び・鬼会	
遺跡	城館跡	北条・在田	小谷城跡	
		賀茂	山下城跡	
		下里	善防山城	
		多加野	河内城跡	
	寺社跡	富田	吸谷廢寺跡	
	古墳・墳墓	北条・富合・在田	玉丘古墳群／玉丘史跡公園	
		下里	後藤山古墳	
	近代戦争遺跡等	九会	鞆野飛行場跡、地下指揮所跡	
自然環境	地形	富田	ゆるぎ岩、鏡岩	
		賀茂	笠松山	
		下里	善防山	
		多加野	鎌倉山	
		西在田	不動の滝	
	動植物	九会	あびき湿原、網引駅の大イチョウ	
		在田	石部神社門杉、殿原町の御葉付イチョウ	
		—	コハクチョウ／白鳥の飛来地	
	ため池	下里	皿池（戸田井町）	
		九会	上池・下池（網引町）、水正池（上宮木町）	
富合		長倉池（玉丘町）		
歴史的な町並み			北条の宿	
生業	賀茂	長石採石場、長池のブドウ畑		
	下里	富久錦		

※加西市域全域を対象とした観光パンフレットである「加西市観光ガイドマップ」、「はじめての加西」、「播磨国風土記の里/加西ハイキングマップ」、「カサイチ/加西市サイクリングマップ」、北播磨地域の観光パンフレット「北はりま/みちくさマップ」、並びに、「北播磨らしい景観/景観シート」（兵庫県北播磨県民局加東土木事務所まちづくり建築課）にあげられている歴史文化遺産を抽出した。

## (2) 指定等文化財

令和2年(2020)3月現在の文化財の指定等の件数は、表2-1-4のとおりである。合計103件を文化財に指定等しており、指定では、国指定が18件、県指定27件、市指定が51件、登録では、国登録が5件、県登録が2件である。種別では、建造物の指定が37件と最も多く、考古資料の22件と続いており、建造物のうち13件は石造の五輪塔・宝篋印塔等、考古資料のうち13件は石仏・石造建造物等であり、石造物が多く指定されていることにも、古くからの石材の産出地として、石の文化を育んできた加西市の歴史文化の特徴の一端をうかがうことができる。指定等文化財の分布は図2-1-2、一覧は巻末資料のとおりである。

表 2-1-4 指定等文化財の件数一覧 (令和2年3月現在)

種 類	国	県	市	国	県	計	
	指定	指定	指定	登録	登録		
有形文化財	建造物	7 (うち国宝1)	10	13	5	2	37
	絵 画	3 (うち国宝1)					3
	彫 刻	5		8			13
	工芸品	1	2	1			4
	古文書			1			1
	考古資料		9	13			22
民俗文化財	有形の民俗文化財			4			6
	無形の民俗文化財	1	1				
記念物	遺 跡 (史跡)	1	3	5			9
	名勝地			2			2
	動物・植物 (天然記念物)		2	4			6
計	18	27	51	5	2	103	

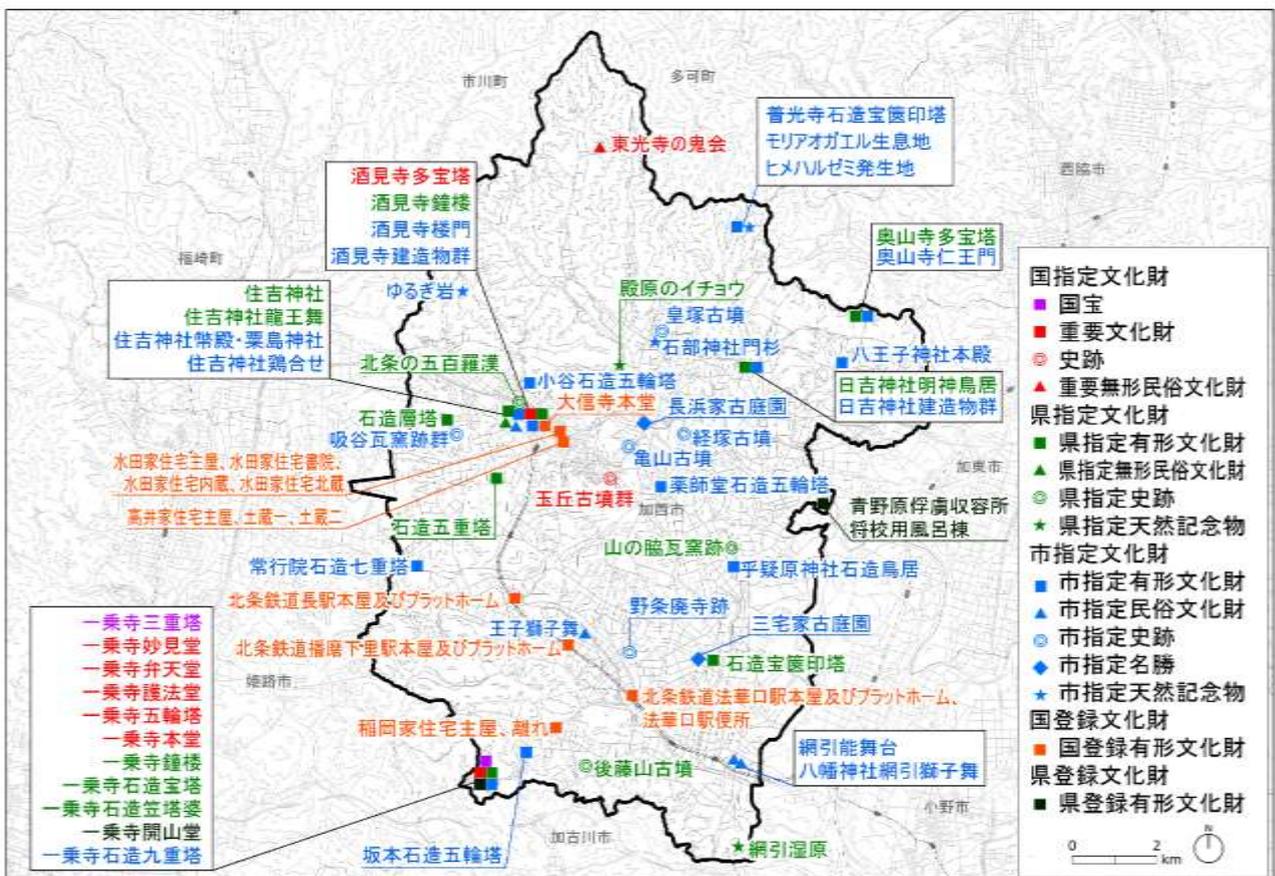


図 2-1-2 指定等文化財の分布 (美術工芸品を除く)

## 2-2. 加西市の歴史文化遺産の特徴

加西市における指定、未指定を含めた歴史文化遺産の類型別の特徴は次に示すとおりである。

### (1) 建造物

#### ア. 仏教建築

市内には、法道仙人開基の伝承を持つ寺院が多く、古代からの仏教文化が引き継がれている。西国三十三所巡礼の札所となっており、国宝である三重塔をもつ一乗寺や、国指定重要文化財である多宝塔をもつ酒見寺などの大規模な寺院をはじめとし、地域住民によって管理されている観音堂や阿弥陀堂といった小規模な堂まで様々な仏教建築が分布している。仏教建築の内訳は、本堂が71件、本堂以外の御堂が52件、門が41件、庫裏が34件、鐘楼が24件、その他26件となっている。その他には塔や手水舎、鎮守社、厨子、集会所などが含まれる。

#### イ. 神社建築

神社建築のうち、本殿132件、幣殿<sup>へいでん</sup>31件、拝殿120件、その他78件となっており、本殿と拝殿のみを持つ神社が多い。江戸期までに建立されたもののうち本殿の建築形式をみると、流造<sup>ながれづくり</sup>が55%、春日造<sup>かすがづくり</sup>が27%とつづいており全国的な傾向に従っている。

また、市内の神社は信仰圏が明瞭であり、信仰圏の大小はおおよそ神社の規模の大小にも反映されている。具体的には、「住吉神社」「<sup>つるぎのみやおうじじんじや</sup>剣之宮王子神社」「王子神社」「<sup>おぎほらじんじや</sup>乎疑原神社」「日吉神社」「石部神社」等の大規模な信仰圏（旧村十ヶ村以上）を持つ神社から、旧村内の一地域のみを信仰圏とする小規模な神社まである。信仰圏は荘園領域を示している場合もあり、中世的空間の広がりや現代まで引き継いでいる。

#### ウ. 住宅

加西市の住宅は大きく二種類に分けられる。市全域に広がる農家建築と、交通の要衝であった北条地区を中心に分布する町屋建築である。茅葺の農家建築は2001年時点では230件程度あったが、現在の程度残っているのかは調査されていない。加西市は播磨から岡山にかけての四間取民家の分布域に含まれており、おおむねそれに従った平面形式となっている。

一方、町屋建築は、平成7年以前の調査で43件あったとされているものが平成16年（2004）までに10件滅失しており、現在はさらに減少していると考えられる。北条の町屋は平入つし二階建てであり、虫籠窓<sup>むしこまど</sup>やうだつを設けている建築もある。

#### エ. その他建築物

その他建築物には、加西の歴史文化を語る近代建築が多く含まれている。具体的には北条鉄道の各駅、織物関係の工場などである。そのほかにも、集会場や小学校、郵便局などかつての市民の生活を支えた施設が残っている。

そして、その他建築物の中で特筆すべきは、「腰石積肥料舎」である。現在28棟の残存が確認されている。これは、明治30年代～昭和30年代（推定）に建築された、建物の「腰」に石の延べ板を積みその上に木造の切妻小屋を載せる建築である。凝灰岩が多く産出される本市独自の建築ということができ、「加西の石文化の最終形態」ともいえる。腰石積肥料舎は煙草栽培と関連するものが多く、煙草栽培がなかった北部地域では見られない。

#### オ. 石造物

石造物は、大きくは道標とそれ以外に分けられる。道標は284件あり市内全域に分布している。道標のほとんどは角柱の頭が半円になっている櫛型である。道標に記載されている目的地を見ると、本市では山崎街道や西京街道など東西方向のほうが、高砂街道など南北方向よりも需要が多かったこと

が推測できる。このようなことから、道標は近世・近代の人の動きを知る貴重な歴史文化遺産である。

道標以外には、石仏・板碑のほか、石塔・鳥居などの石造建造物が含まれる。本市は、古代から近世に至るまで良質な凝灰岩を切り出し、周辺地域に供給していた。古代には玉丘古墳の長持形石棺をはじめとして、古墳の石棺材として利用されていた。白鳳時代に制作されたと考えられる古法華石仏や乎疑原神社の石造五尊像は畿内より西に現存する石仏としては最古のものと考えられているが、その後の奈良・平安時代の石造物はほぼ残っていない。鎌倉時代中期以降になって石造文化が復活したと考えられ、このころに石棺を転用して石仏を作る事例が増加し、また五重塔や五輪塔などの制作も盛んとなる。加西の主要な石仏は、地元で切り出された石材あるいは石棺材を利用して地元の石工が制作した作例がほとんどであり、地元の特産品とも表現できる。中世の石工の工房跡の遺跡も発見されており、生活雑器と石塔が並行して生産されていたことが判明している。また、近年は江戸時代の石仏などの研究もされはじめている。

#### カ. 土木構造物

土木構造物は、本市の景観イメージを印象付ける重要なものである。調査で把握されている4件は飯盛野疎水、大柳ダム、東剣坂のつり橋、北条鉄道であり、日ごろから市民の生活を支える貴重な歴史文化遺産である。

### (2) 美術工芸品

#### ア. 絵画

本市の絵画のほとんどは江戸時代の安定期に入ってから作例であるが、中世以前のものも存在する。特に一乗寺の仏教絵画は、播磨と大和に深い関係が続いていたことを示す貴重なものである。近世以降の仏画は庶民信仰の所産が多く、特に室町時代後期から江戸時代末期にかけての涅槃図が多い。ほとんどの涅槃図は京都方面からの購入であると考えられており、加西と都との活発な交流の様子が窺える。

なお、所在地非公開のためリストに含めていないものも多いが、近世絵画についてみると、加西と関係のあった画家として、岡田米山人<sup>おかだべいざんじん</sup>、岡田半江<sup>はんこう</sup>、九茄<sup>たのむらちよくにゅう</sup>、田能村直入<sup>たのむらちよくにゅう</sup>、北条出身の小齋等が挙げられる。

#### イ. 彫刻

平安時代までの彫刻としては、一乗寺の金銅仏群と酒見寺の十一面観音立像(本尊)が挙げられる。加西市域の造仏活動は、平安時代後期に一躍盛んになったと考えられており、そのころ制作された彫像はすべて木彫像である。中世の仏像は、古代の作例ほど多くはない。近世の作品は、銘文が明らかなものが多く、仏師についての記載もみられる。江戸時代前期は神出の仏師のものが多く確認されているが、江戸時代後期には三木の仏師、幕末から明治時代にかけては北条の仏師の活動もみられる。

#### ウ. 工芸品

工芸品は、仏教・神道美術に集中している。具体的には、梵鐘<sup>ぼんしゅう</sup>・鰐口<sup>わにくち</sup>・鉦鼓<sup>しょうこ</sup>・厨子<sup>かづ</sup>・駕籠<sup>わかがみ</sup>・和鏡<sup>わかがみ</sup>などである。中には、日吉神社の和鏡・懸仏群<sup>かけぼとけぐん</sup>のように戦災を逃れるため境内に埋められ人々の手によって守られてきたものもある。また、東光寺の鬼面のように、現代においても現役で行事等において活躍している歴史文化遺産もある。

### (3) 歴史資料

未指定の歴史資料のうち棟札は寺社建築に付随するものが多い。そのほかには、青野原俘虜収容所、

住宅に係る棟札が含まれている。古文書は市史編纂のなかで把握され、整理が進められている。具体的には、村落運営に関わる資料、藩政に関わる資料、土地の開墾に関わる資料、第二次世界大戦時の資料、商売など生活に係る資料、私文書等があり、内容は多岐にわたる。このように、古文書類は地域の成り立ちを知る重要な史料となるため、今後、計画的な調査が必要とされる。その他歴史資料には、古代～中世の出土遺物が多く、瓦や祭祀道具、石棺蓋、土器などが含まれる。また、各寺社には書画などが数多く所蔵されている。

#### (4) 民俗文化（説話や伝承、祭事・芸能、生活・生業）

本市には暮らしを彩る様々な民俗文化が存在する。説話や伝承は、播磨国風土記に関連するものとそれ以外に分けられる。説話や伝承にかかわる地名や自然景観は市内にまんべんなく分布している。

社寺で行われる祭礼や行事は、中世から継続しているものもあれば江戸時代に天領になったことにより影響を受けているものもあり、地域によって内容が異なる。民間信仰を背景にした「とんど」、「おとう」等の行事も、各地域でそれぞれ特色のあるものとなっている。また、民俗芸能としては無形文化財に指定されている「田遊び・鬼会」や「龍王舞<sup>りょうおうまい</sup>」をはじめ、「播州歌舞伎」などが受け継がれている。こうした年中行事は地域住民の共同体意識を育むものであり、重要な歴史文化遺産である。生活・生業には、「藺草<sup>いぐさ</sup>つくりと畳<sup>たたみ</sup>表<sup>おもて</sup>・莫<sup>も</sup>産<sup>さん</sup>」、「葉煙草<sup>はたばこ</sup>」、「椎茸栽培」、「酒造業」、「醤油業」、「木製品」、「石材」、「竹製品」の8件が含まれている。それぞれ最盛期には加西の産業を支えたものであったが、現在残るのはわずかである。

#### (5) 遺跡

遺跡の内訳は、遺物、散布地 93 件、集落跡 139 件、城館跡 41 件、寺社跡 24 件、生産遺跡 95 件、古墳・墳墓 396 件、近代戦争遺跡等 2 件、その他遺跡 8 件、旧街道 8 件であり、その分布は広く市域全域にまたがっている。城館跡には「善防山城跡<sup>ぜんぼううきん</sup>」、「山下城跡」、「小谷城跡」、「河内城跡」など、現在活用に向けた取り組みが活発なものも多くある。生産遺跡には、古代～中世の土器や瓦の窯跡や古代～現代の高室石や長石<sup>ながいし</sup>の採石場跡などが含まれる。古墳・墳墓は、玉丘古墳群をはじめとして播磨国風土記の舞台となる遺跡が数多く残っている。近代戦争遺跡は「鶉野飛行場跡地」と「青野原俘虜収容所跡」の2件が数えられており、近年その価値が徐々に明らかになり活用に向けた取り組みが活発に行われている。飛行場跡内には滑走路や機銃座、防空壕などが、青野原俘虜収容所には将校用風呂棟や土地区画の名残などが残っている。その他遺跡には条里遺跡や塚、祭祀跡などが含まれる。旧街道で取り上げられているのは、「姫路街道」、「丹波・宮津街道」、「姫路道」、「山崎街道」、「西京街道」、「兵庫街道」、「高砂街道」、「西国三十三所巡礼道」の8件である。

#### (6) 名勝・天然記念物

加西市の庭園の特徴は、江戸時代中期以降のもので、寺院庭園が少なく民家の庭園が多いことである。江戸時代には特に庄屋を中心に作庭され、明治以降の洋式庭園が広がる中でも自然主義的な日本庭園の美を演出したものが多く作庭された。自然地形では、播磨国風土記の舞台となった場所が多く存在する。特に「綱引湿原」をはじめとする湿地やため池、川など水に関するものが多く含まれており、身近な水環境が加西には多くあることがわかる。動植物には、大杉、御葉付銀杏<sup>おほつぎいちよう</sup>など古くから御神木等として地域で親しまれてきた樹木や、コハクチョウやヒメハルゼミ、モリアオガエルなど加西市の豊かな自然の中で生きる貴重な動物などが含まれている。

### (7) 伝統的建造物群・文化的景観

伝統的建造物群では、「北条の町並み」、文化的景観では「長池のブドウ畑」が挙げられる。北条の町並みは、1,200年以上前に酒見寺や住吉神社の門前町として形成され、江戸時代に在郷町として繁栄した面影をよく残している。現在は兵庫県の景観条例に基づき、景観形成地区に指定されている。

長池のブドウ畑は、加西市の中でも特徴的な畑で、地域で取り組んできた果樹栽培という人々の生業が織り成す特徴的な文化的景観が形成されている。